

くえんしょうにんかいきち 苦厭上人開基の地について

伊予市教育委員会事務局社会教育課
令和5年7月7日

市指定文化財「苦厭上人開基の地」（昭和59年12月26日指定）は、愛媛県伊予市中村甲546番地2の緩斜面にある史跡です。

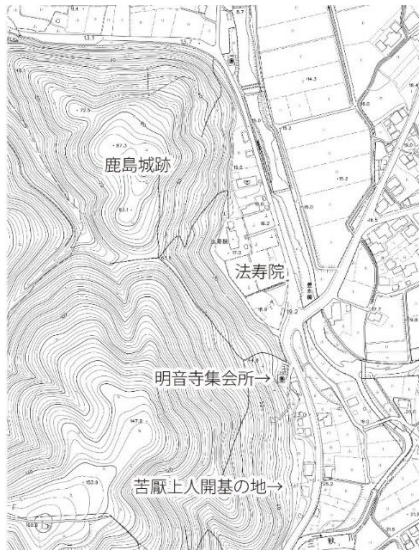


図1 史跡周辺地図



写真1 苦厭上人開基の地

慶長20年（1615）、大坂の陣で豊臣家が滅んだ際に処刑された国松丸（豊臣秀頼の長子、秀吉の孫）が、密かに生き延びて苦厭上人となり、この地に明音寺（灘町にある栄養寺の前身）を建立したと伝承されています。

明治期に書かれた『郡中町郷土誌』や、『北山崎地区の民話と伝説』（昭和44年（1969））、『北山崎地方の昔しばなし』（年不詳）に記録があります（図2）。

栄養寺には、秀頼公筆の書が保管されています（写真2）。ただし、『郡中町郷土誌』によると、これは尾崎の伊藤氏が栄養寺に寄付したものであり、昔から栄養寺に伝世するものではないようです。

現在「苦厭上人開基の地」には、五角柱の石（源太石と推定）を用いた「豊栄権現碑」が建立されています（写真3）。5面全てに銘文が刻まれています（図3）。石碑の西側には五輪塔が11基安置されており、これは、鎌倉時代後期～室町時代後半（推定）の「明音地五輪塔群」と報告されています。今でも新暦8月27日に、栄養寺住職と地元の方々がこの地で法要をおこなっています。



苦厭上人開基の地の場所
Google Map

国松丸の伝説

豊臣一族が滅亡する頃、大阪城が落城し、秀頼の子国松丸は当時七才で京都の六条河原で殺されたことになっていますが、本当は国松丸は殺されることなく、身代りの者が殺され、その首を家康に見せたそうです。

当の国松丸は徳川の目をのがれ、少数の家来達をつれて今の高野川の地に上陸し、山伝いに現在の中村の地にたどりつき、その地に明音寺という寺を建立し、国松丸は九円聖人という坊さんになり、家来達もみんな坊さんになって一族みなはてたこのことです。

それから時は流れ、下灘から宮内兄弟が郡中を開いた時菩提寺に明音寺を今の灘町にうつし、その寺を円養寺と改名した。(現在の円養寺)明音寺跡は今でも地名となって中村と三秋の境あたりをさしています。

その後歳月がたち、中村部落の住民が五輪さんが十数個集まった地を農地にするため耕したところ家はたちまち不幸になり一族はことごとく絶えてしまいました。それからというもの誰が耕しても一畝うち込むとふるえがきて誰も耕す者はいませんでした。近年、ある信仰のあついな人が耕して、今ではみかん畑となっています。

図2『北山崎地区の民話と伝説』(昭和44年)抜粋



写真2 秀頼公筆の書



写真3 碑(東面)

(土台を除き、高さ約1.15m、幅約0.2m)

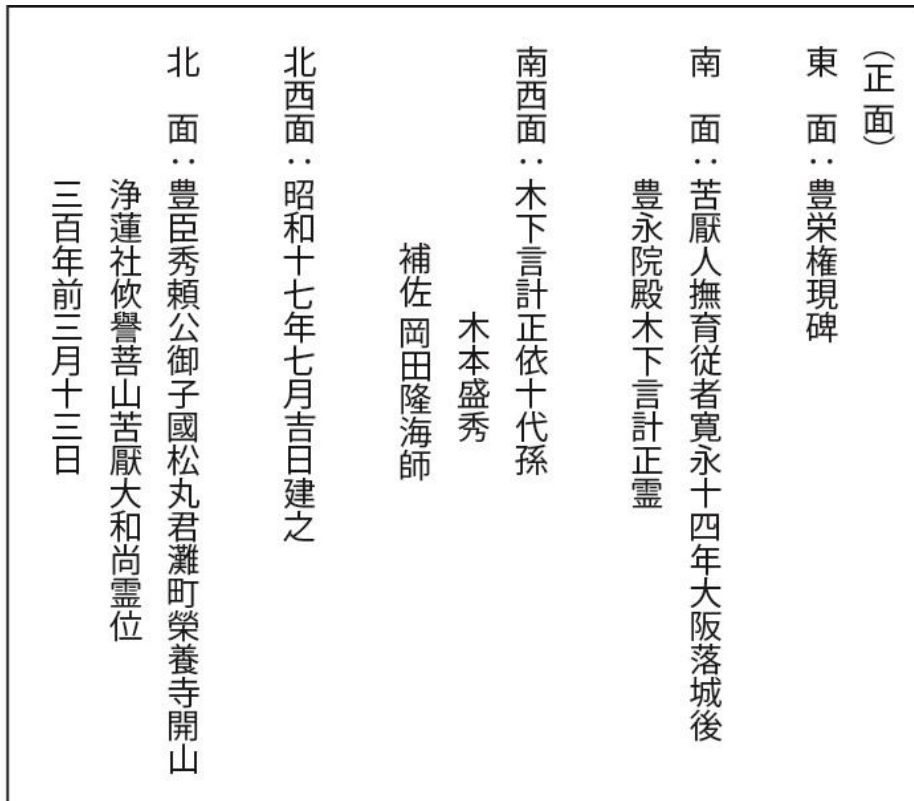


図3 碑の銘文翻刻